

社外取締役メッセージ



松崎 耕介
取締役(社外)

(重要な兼職の状況)
マフテックグループ株式会社
代表取締役社長CEO

まず私がこれまで関与してきた日本企業の中でも、セコムの取締役会は特に自由闊達な雰囲気の中で建設的な議論がなされていると感じています。社外取締役や監査役の意見が尊重され、時には厳しい意見が述べられる場面があるなど、開かれた風土は健全なガバナンスの証左であると評価しています。業務執行側の取締役と社外取締役との間で、双方向の率直な意見交換が、さらに活発化することを期待しています。

一方で、社外取締役として現場への理解を深めることでより実りある議論ができると考え、現場を知る機会の充実などを実効性評価アンケートでお願いしました。このような社外取締役全員からの様々な要望に対応し、取締役会で取り上げる議題の事前説明会や、様々な事業への理解を深めるための現場見学会の機会が増えています。社外取締役に就任してからの1年間でオンライン・セキュリティシステムの事業所や常駐警備のサービス拠点などを訪問する機会を得ました。特にセキュリティの現場では、高い規律と品質を確保する仕組みが徹底されていることを目の当たりにし、また社員の方々が高い使命感と誇りを持って業務にあたる姿が印象的でした。こうした姿勢こそが顧客からの厚い信頼の礎となっていると実感しています。現場見学会は、資料だけでは得られない貴重な洞察をもたらし、今後の取締役会での議論に参加するにあたり役立つものだと思っています。

いくつかの経営課題についても率直に申し上げたいと思います。まず、重要テーマの一つであるグローバル展開の強化についてですが、私の20年以上にわたるグローバル企業で培った知見から、もっと改善できる余地があると考えています。セコムは国内ではセキュリティのトップ企業ですが、海外においては日本でのビジネスモデルを適用することがふさわしい場合とそうでない場合があり、適用が難しい国・地域であっても、社会動向や文化・国民性などをより深く分析することでセコムの強みを発揮できる国はたくさんあると思います。「セコムグループ ロードマップ2027」の実現に向けて、M&Aの戦略的活用や、より定期的なモニタリング体制の強化など、攻めと守りの両面でより踏み込んだ議論と意思決定が不可欠だと考えています。

IT・DX分野についても、大規模なITシステムの刷新が進められていますが、私が長年携わってきた大規模ITシステム更新の経験から、経営トップの継続的な関与が極めて重要だと考えています。こうしたプロジェクトは単なる技術導入ではなく、業務プロセスの変革を伴うものであり、現場の理解と協力を得ながら推進していく必要があります。私は吉田社長に対し、継続的なリーダーシップの発揮をお願いしており、今後も必要に応じて助言させていただきたいと思います。

さらに、情報開示の姿勢強化も重要な課題です。当社は外部への情報開示は比較的控えめな印象があります。私はセコムのベースアップなどの人財投資を評価している一方、昨今、投資家をはじめ各所からご要望が多い事項についても、より積極的に発信すべきではないかと感じています。これまでの私自身の経験から投資家が求める情報開示のレベル感を共有し、セコムにおいても持続可能な成長を支える情報開示の在り方について、引き続き提言したいと考えています。

今後も、私がこれまでグローバル企業で培ってきたIT・DX、人財戦略、後継者育成、情報開示などの知見を生かし、社外取締役として積極的に経営の意思決定に参画し、経営の透明性と信頼性の向上に貢献してまいります。セコムがすべてのステークホルダーの皆様から信頼され続ける企業であるよう、引き続き尽力していきます。



鈴木 ゆかり
取締役(社外)

(重要な兼職の状況)
東京エレクトロン株式会社
社外取締役

2025年3月期は、私にとってセコムの社外取締役としての初年度となりました。まずは会社を深く理解することに努めてきた一方で、取締役会では、社内の常識にとらわれない1年目ならではの視点を発揮したいという想いを持って臨み、そこから生じる疑問や気づきをもとに、率直な発言を心掛けてまいりました。

取締役会では、すべての取締役が活発に発言し、常に建設的な対話が行われる環境が整っていると感じています。また、セコムやグループ会社の事業を視察する機会もあり、事業への理解を一層深めることができました。セキュリティを軸に、防災やメディカルなど多様な領域へ事業展開するセコムグループの姿は、どの現場を見に行っても「あらゆる不安のない社会の実現」というミッションに強くつながっていると実感しました。

経済的価値と同時に社会的価値の創出を重視する経営姿勢にも共感しています。経営層が人的資本を最重要視し、社員の使命感を尊重していることも印象的でした。大胆なベースアップの実施や、心理的ハードルの高いサービス価格改定への果敢な取り組みは、吉田社長の強いリーダーシップの表れであり、企業価値向上のための今後の変革の重要なステップだったと思います。

一方で、改善の余地がある課題もいくつか認識しています。現状議題が多岐にわたるがゆえに議論の時間に制約がありますが、取締役会では中長期的なビジョンや企業価値

に関する戦略的な議論にもっと時間を割くべきだと感じています。もっとも、社外取締役に對する事前説明の充実や、別途ディスカッションの機会を設けるなどの取り組みが始まっており、毎年の取締役会の実効性評価を踏まえた改善がされているので今後のさらなる進化を期待しています。また、グローバル化に向けたガバナンス体制についてもさらに改善していくべきだと考えています。海外売上上の拡大をめざすにあたっては、本社と海外子会社との間に存在する運営方針やガバナンスレベルの差異を是正し、一体的なマネジメント体制を構築することが重要です。

企業文化においては、セコムは誠実で真面目な印象を受けています。一方で、現状の組織は同質性が高く、外部人材が溶け込みにくい面もあるのではないかと感じています。これからの時代には、年齢・性別・国籍・キャリアなど多様な視点を受け入れ、異なる価値観が有機的に交差する組織風土の醸成が求められます。私がこれまでのキャリアでダイバーシティ向上に関わって感じていることは、単に人数を増やして多様にするのではなく、誰もが能力を発揮でき、組織の能力が高まるようにすることが最も重要だということです。柔軟な制度・働き方の整備、進化した企業文化の浸透など、そのための改革を支援してまいりたいと考えています。

IRや情報開示に関しては、株主からより積極的な発信を求める声が寄せられています。中でも、資本効率に関する方針については、さらに踏み込んだ説明が期待されており、企業としての中長期的な方向性や意思決定の背景を明確に伝えることが重要だと感じています。また、個人株主の構成比が相対的に低い現状を踏まえると、ファン株主の裾野を広げていくためのエンゲージメント施策にも、今後一層注力していくべきだと考えています。

社外取締役としてセコムの経営に携わる中で、私自身セコムという企業への愛着が日々深まっています。社会の安全に不可欠な存在であるセコムが、様々な課題を乗り越えて業界のフロンランナーとして成長し続けるため、私はその挑戦を後押しする立場として、今後も力を尽くしてまいります。